

平成30年3月 東京地区百貨店売上高概況

平成30年4月20日

I. 概況

1. 売上高総額	1,415億円余
2. 前年同月比	0.1% (2か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭1.7%(89.9%) : 非店頭-12.2%(10.1%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成30年2月対比±0店)
5. 総店舗面積	845,606㎡ (前年同月比:-3.0%)
6. 総従業員数	17,610人 (前年同月比:-3.0%)
7. 3か月移動平均値	8-10月 2.5%、9-11月 2.7%、10-12月 1.5%、 11-1月 1.5%、12-2月 0.5%、1-3月 0.1%

[参考] 平成29年3月の売上高増減率は-0.2%

【特徴】

- (1) 東京地区入店客数は2.1%増と5か月連続増。当月は好天に恵まれたほか、都内各店が積極展開した物産催事・文化イベント、あるいは改装効果等も寄与して前年実績を超える入店状況であった。その結果、売上高も0.1%増と2か月連続でプラスした。
- (2) 商品別では、衣料品(1.2%増)が4か月ぶりにプラスに転じた。気温上昇から春物商材が順調に推移し、コート、ジャケット、ブラウス、スカート、ワンピース、カットソーなど重衣料から軽衣料に至るまで幅広く動き、紳士服、婦人服、子供服とも前年をクリアした。
- (3) 食料品(0.2%増)も2か月ぶりにプラスとなった。月後半に満開を迎えた花見関連需要が好調に推移した他、和洋酒や食品催事を含むその他食料品(4.5%増)の活況もプラスに寄与した。半面、未だ不漁不作による価格高騰の影響が残る生鮮食品(3.6%減)や、ホワイトデー商戦が低調に推移した菓子(0.9%減)は前年実績に届かなかった。
- (4) 身のまわり品(2.1%増)は3か月連続プラス。ラグジュアリーブランドに加え、新社会人のビジネスニーズから紳士・婦人靴等の服飾雑貨に動きが見られた他、ファッションの軽装化からネックレスなどのアクセサリも好調であった。
- (5) 雑貨(6.6%増)は16か月連続プラス。化粧品はUVケア商品や関連イベントも好評で国内外ともに高伸。高額商材(美術・宝飾・貴金属)や、その他雑貨も前年をクリアした。一方、家庭用品は前年の外商の大口受注の反動や売場面積縮小等により、マイナスに転じた。
- (5) 4月中間段階の商況は、1.4%増(4/16)で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比 +0.4日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見ると傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 6店、②変化なし: 6店、③減少した: 7店
- (3) 3月歳時記(ひな祭り、ホワイトデー、卒業・入学、新生活)の売上 (同上/有効回答数12店舗)
①増加した: 3店、②変化なし: 7店、③減少した: 2店

東京地区百貨店 売上高速報 2018年03月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	141,542,399	100.0	0.1
紳士服・洋品	11,008,945	7.8	2.9
婦人服・洋品	24,869,940	17.6	0.4
子供服・洋品	6,020,768	4.3	3.2
その他衣料品	2,315,396	1.6	-2.3
衣 料 品	44,215,049	31.2	1.2
身のまわり品	19,724,953	13.9	2.1
化粧品	15,540,023	11.0	10.6
美術・宝飾・貴金属	8,465,323	6.0	0.5
その他雑貨	6,258,635	4.4	5.6
雑 貨	30,263,981	21.4	6.6
家 具	1,561,476	1.1	-0.4
家 電	591,848	0.4	-14.0
その他家庭用品	4,789,893	3.4	-15.7
家 庭 用 品	6,943,217	4.9	-12.5
生 鮮 食 品	4,088,493	2.9	-3.6
菓 子	11,084,474	7.8	-0.9
惣 菜	6,399,116	4.5	-1.1
その他食料品	9,123,036	6.4	4.5
食 料 品	30,695,119	21.7	0.2
食 堂 喫 茶	3,091,224	2.2	-1.3
サ ー ビ ス	2,421,017	1.7	0.2
そ の 他	4,187,839	3.0	-29.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	2,819,838 千円	-2.6
従 業 員 数	17,610 人	-3.0
店 舗 面 積	845,606 m ²	-3.0
営 業 日 数	31.0 日	前年 30.6 日

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が16か月連続、身のまわり品が3か月連続、食料品が2か月ぶり、衣料品が4か月ぶりのプラスとなった。また、家庭用品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が36か月連続、美術・宝飾・貴金属が11か月連続、その他雑貨が4か月連続、子供服・洋品が2か月連続、その他食料品が2か月ぶり、紳士服・洋品が3か月ぶり、婦人服・洋品が4か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.1	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	2.9	0.2	3か月ぶりプラス
婦人服・洋品	0.4	0.1	4か月ぶりプラス
子供服・洋品	3.2	0.1	2か月連続プラス
その他衣料品	-2.3	0.0	6か月連続マイナス
衣料品	1.2	0.4	4か月ぶりプラス
身のまわり品	2.1	0.3	3か月連続プラス
化粧品	10.6	1.1	36か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	0.5	0.0	11か月連続プラス*
その他雑貨	5.6	0.2	4か月連続プラス*
雑貨	6.6	1.3	16か月連続プラス
家具	-0.4	0.0	4か月連続マイナス
家電	-14.0	-0.1	7か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-15.7	-0.6	12か月連続マイナス
家庭用品	-12.5	-0.7	2か月ぶりマイナス
生鮮食品	-3.6	-0.1	25か月連続マイナス*
菓子	-0.9	-0.1	3か月連続マイナス*
惣菜	-1.1	-0.1	3か月連続マイナス*
その他食料品	4.5	0.3	2か月ぶりプラス*
食料品	0.2	0.0	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	-1.3	0.0	7か月連続マイナス
サービス	0.2	0.0	4か月ぶりプラス
その他	-29.7	-1.3	3か月連続マイナス
商品券	-2.6	-0.1	2か月ぶりマイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>